

9月19日

聖書 創世記19章15～38節

後ろを振り返ってはならない。

19:15 夜が明けるころ、御使いたちは口トを促して言った。「さあ立って、あなたの妻と、ここにいるふたりの娘たちを連れて行きなさい。さもないと、あなたはこの町の咎のために滅ぼし尽くされてしまおう。」19:16 しかし彼はためらっていた。すると、その人たちは彼の手と彼の妻の手と、ふたりの娘の手をつかんだ。—【主】の彼に対するあわれみによる。そして彼らを連れ出し、町の外に置いた。

19:17 彼らを外のほうに連れ出したとき、そのひとりは言った。「いのちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこでも立ち止まってはならない。山に逃げなさい。さもないと滅ぼされてしまう。」ロトは彼らに言った。「主よ。どうか、そんなことになりませんように。ご覧ください。このしもべはあなたの心にかない、あなたは私のいのちを救って大きな恵みを与えてくださいました。

しかし、私は、山に逃げることができません。わざわざわいが追いついて、たぶん私は死ぬでしょう。19:20 ご覧ください。あそこの町は、のがれるのに近いのです。しかもあんなに小さいのです。どうか、あそこに逃げさせてください。あんなに小さいではありませんか。私のいのちを生かしてください。」その人は彼に言った。「よろしい。わたしはこのことでも、あなたの願いを入れ、あなたの言うその町を滅ぼすまい。

19:22 急いでそこへのがれなさい。あなたがあそこに入るまでは、わたしは何もできないから。」それゆえ、その町の名はツォアルと呼ばれた。

19:23 太陽が地上に上ったころ、ロトはツォアルに着いた。19:24 そのとき、【主】はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天の【主】のところから降らせ、19:25 これらの町々と低地全体と、その町々の住民と、その地の植物をみな滅ぼされた。

19:26 ロトのうしろにいた彼の妻は、振り返ったので、塩の柱になってしまった。

19:27 翌朝早く、アブラハムは、かつて【主】の前に立ったあの場所に行った。

19:28 彼がソドムとゴモラのほう、それに低地の全地方を見おろすと、見よ、まるでかまどの煙のようにその地の煙が立ち上っていた。

19:29 こうして、神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた。

19:30 その後、ロトはツォアルを出て、ふたりの娘といっしょに山に住んだ。彼はツォアルに住むのを恐れたからである。彼はふたりの娘といっしょにほら穴の中に住んだ。

今日の聖書箇所から、ソドムの町の滅亡と
ロトの救出劇を見て行きたいと思います。

19:23 太陽が地上に上ったころ、ロトはツォアルに着いた。 19:24 そのとき、【主】はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天の【主】のところから降らせ、 19:25 これらの町々と低地全体と、その町々の住民と、その地の植物をみな滅ぼされた。

ノアの時代の罪を神様は洪水で裁き、
箱船に入らなかった人々を滅ぼされました。

ノアの洪水に次ぐ裁きとして
神様はソドムの町を火と燃える硫黄で
裁かれました。

これらはどんな現実であったでしょうか。
最近映像の技術が大変発展いたしました。

九州の雲仙普賢岳の爆発、
木曾の御嶽山の爆発、
東北大震災の津波の映像。

最近では

熱海の町を襲った土石流。
これらからソドムの町に降った硫黄の火
それによるソドムの町の滅亡も
現実味を帯びて
想像することができます。

このようなソドムの町を裁く、
処刑する執行官として
二人の天使はソドムの町へ、
ロトの家に来ています。

この出来事はイエス様の日と重ねあわせてイエ
スは言及され、
ルカは記録しています。

ルカ17:26

人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日
起こったことと同様です。17:27 ノアが箱舟に入
るその日まで、人々は、食べたり、飲んだり、め
とったり、とついたりしていたが、洪水が来て、す
べての人を滅ぼしてしまいました。17:28 また、
ロトの時代にあったことと同様です。人々は食べ
たり、飲んだり、売ったり、買ったり、植えたり、建
てたりしていたが、

17:29 ロトがソドムから出て行くと、その日に、火と硫黄が天から降って、すべての人を滅ぼしてしまいました。17:30 人の子の現れる日にも、全くそのとおりです。17:31 その日には、屋上にいる者は家に家財があっても、取り出しに降りてはいけません。同じように、畑にいる者も家に帰ってはいけません。17:32 ロトの妻を思い出しなさい。17:33 自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます。

17:30 人の子の現れる日にも、全くそのとおりです。

ロトの所に神様は二人の使いを
使わされました。

ソドムの町は滅ぼされます。
今すぐ後ろを振り返らずに逃げなさい。
さもないとこの町の咎のための裁きに
巻き添えになって滅ぼされます。

ロトの娘の夫たちはこの神様からのメッセージを
冗談のように思って信じませんでした。

ロトさえも信じられなくてためらっていました。「い
のちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけ
ない。この低地のどこでも立ち止まってはなら
ない。山に逃げなさい。さもないと滅ぼされてし
まう。」

それでもロトは「主よどうかそんなことになりません
ように」とまだ真剣に信じていません。

このときの口トの言い分。

ご覧ください。このしもべはあなたの心にかない、
あなたは私のいのちを救って大きな恵みを与えて
くださいました。しかし、私は山に逃げることは
出来ません。

口トはこの後に及んでなぜこんなことを言っている
のでしょうか。

イエス様はロトのこの状況を

「17:28 また、ロトの時代にあったことと同様です。人々は食べたり、飲んだり、売ったり、買ったり、植えたり、建てたりしていたが、火と硫黄が天から降ってきて、すべての人を滅ぼしてしまいました。」

ロトは自分は真面目に経済活動をしている。なぜ逃げなければならないのですか。

なぜ今の仕事を辞めなければならないのですか。ここを離れるのはいやです、と最後まで抵抗しています。

山に逃げなさい、
口トは山では生活が出来ません、
あの小さな町に逃れさせてください、
あそこなら生活出来るでしょう。

その町も裁かれる町でありましたが
口トが潜り込んだ故に神様はその町を滅びから
免れさせてくださいました。
口トの奥様はその町へ逃避行の際、
後ろを振り向いたため、
塩の柱になってしまいました。

ロトは小さな町に逃げ込みましたが、
しかしその町の人々の凶暴さに耐えられず、住むこ
とが出来ず山の洞穴で暮らすことになりました。

創世記19章30節からのロトの人生は
悲劇で終わっています。

口トの人生から私たちは何を学ぶべきでしょうか。イエスさまは口トの歩みから何を学べと言われているのでしょうか。

神様の言葉を聞く、
神様と交わることの大切さ。
主にある交わりの大切さ。

神様はロトの家に二人の使いをわざわざ
神様からのメッセージを届けるために、
送ってくださいました。

ロトを愛してロトを救うため、ロトが幸せになるた
め、御使いが訪れてくださいました。

ロトは大切な神様からのメッセージに耳を傾け
ないでこの旅人と商売の話をしようと期待して
家に招きました。

霊的な耳、聴力が麻痺していたみたい。

神様と交わる、
神様の言葉を聴くためには
日曜日の礼拝を大切にすること
礼拝で神様の言葉を聴くことは
霊的な聴力が麻痺せず、
神様の御心を知ることが出来る
大切な恵みの場所。
人生の中で本当に大切なことと、
そうでないことの区分が出来ること。

この世に住んでいますが
考え方、生き方において
この世と分離することの大切さ。

神様はロトに、ここを離れなさい。

ここから逃げなさい。後ろを振り返ってはいけ
ない。未練を持ってはいけ

ない。
ロトがグズグズしているので天使は彼らの手
を取って無理矢理ソドムから引きずり出しました。

口トの時代も、今も私たちは、
食べたり、飲んだり、売ったり、買ったり、
植えたり、建てたり、
めとったり、嫁いだりしています。

この世との分離は、同じことをしていても
この世に結びつくか神様に結びつくかを明確にすること。
と。

神様に結びついて、導かれて、神様の栄光のために
これらの世の業を行います。

肉の欲、人間的な欲望、野心、動機からの分離を
イエス様は求めていてくださいます。

中世の時代は修道院へ入ることによって
この世からの分離を図ろうとしました。

場所が修道院であっても

ルターは人との競争心、指導者に認めてもらいた
い欲から離れることが出来なかった。

この世で生活して、主に委ねる生活、主の栄
光を求めて、主に結びつくことで、この世の原理
からの分離が出来ます。

これだけふがない口が滅びを免れた。

問題をいっぱい持ってはいいても

アブラハムと一緒にカルデヤのウルを出発して、
信仰の一步、信仰の歩みを始めていました。途
中にいろんなことがあっても、

主は「はじめの一步の信仰」を覚えていてくださ
います。

ソドムから60キロ離れていますが
ヘブロンの高台で遙かソドムを
見下ろしながらロトのためにとりなしの祈りをささ
げていたアブラハムの祈り。
アブラハムの祈りの故にロトは寸でのところで滅
びを免れました。

人の子の現れる日にも、
全くそのとおりです。

ルカ17章30節

イエス様の再臨の日を覚え、備えて、
待ち望んで生きる。

イエス様が再び来てくださる日。

地上の罪に対する裁きと

主に従ったものへの報いの時。

神様の裁きの日が来ます。その日を覚えて備えるように。

いつかイエス様が再び来てくださって世界を裁か
れる日に備えて

毎日の生活のプライオリティー
何が大切で、何がそうでないかを
わきまえながら歩みましょう。
そのためにも主のみ声を聴きつつ
歩みましょう。

祈り